Oda Nobunaga's work to subdue the whole country involves preparation in both eastern + western Japan

東西に足固めをしていった織田信長の天下平定事業

▶織田信長が飛躍するきっかけは、**桶狭間の戦い**である。1560（永禄３）年、駿河・遠江を支配する今川義元が２万5000の大軍で信長の領土尾張に襲来した。尾張はたちまち蹂躙されていったが、信長は隙をついて義元の本陣を奇襲し、その首を奪った。以後、三河の徳川家康と同盟を結んで東を固め、自身は西へ進んで美濃の斎藤氏を滅ぼすと、足利義昭を奉じて京都へ入り、義昭を将軍にすえ、その権威を利用して**全国統一を進め**ていった。また、京都や堺といった都市を直轄とし、**関所を撤廃**して物資の輸送を容易にし、城下に**楽市・楽座令**を発して商工業の殷賑をはかった。また壮麗な**安土城を築城**した。

▶だが、信長と険悪になった義昭が、密かに近江の浅井氏や甲斐の武田氏、比叡山延暦寺、石山本願寺などと連絡を取りあって信長包囲網をつくるようになる。しかし信長はこれに屈せず、1570（元亀元）年、**姉川の戦い**で浅井・朝倉連合軍を破り、翌年、**延暦寺を焼き討ち**にし、1573（天正元）年には将軍義昭を京都から追い、２年後の**長篠の戦い**で武田勝頼を大敗させた。その後、**石山本願寺と講和**した信長は、1582年、甲斐の武田氏を滅ぼした。だが、同年６月、**家臣の明智光秀に突然離反され、京都の本能寺で殺された**（本能寺の変）。

The unification of the whole country by Toyotomi Hideyoshi

豊臣秀吉の天下統一

▶羽柴秀吉は、本能寺の変で主君信長が殺されたとき、中国地方で毛利氏と対戦していた。信長の死を知るや、毛利氏と講和を結んでただちに京都へ馳せ、山崎で明智光秀を倒した。1583（天正11）年には織田家の重鎮柴田勝家を賤ヶ岳にやぶり、天下統一を目指すことを示した。

▶翌年、小牧・長久手で徳川家康・織田信雄（信長の次男）と戦って敗れるが、1585年に四国、その２年後に九州を平定した。この間、**朝廷から豊臣の姓を賜って関白に叙任**され、その権威を背景に惣無事令（停戦命令）を発し、1590年、東北も平定して**全国を統一した**のである。

▶秀吉は、全国すべての土地を検地し（**太閤検地**）、米の生産高を基準とする石高制を定めた。また、刀狩によって農民から武器を取り上げ、身分統制令を出し**兵農分離**を完成させて土地に農民をしばりつけ、武士と商工業者を都市に集住させ、諸大名には軍役を負担させるという施策を推進した。豊臣政権は200万石の蔵入地、直轄の都市・鉱山を主財源とし、五奉行（５人の秀吉の側近官僚）に政務を分担させ、五大老（５人の有力大名）に重要施策を合議させる体制をとったが、最後まで秀吉個人の独裁的傾向が強かった。